

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人物を育成する。

自立支援コースを設置する総合学科の高校として、

- 1 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
- 2 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
- 3 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
- 4 地域に根ざす高校として、学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と学習指導要領の確実な実施

(1)「わかる授業」により生徒が自己肯定感を向上し、生徒が主体的に学ぶ姿勢の一層の向上をはかり、進路実現へとつなぐ取組を進める。

- ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒を主体とした「学習力」の視点での授業を通し、「自己実現力、協働力、深く考える力」を育む。
- イ 総合学科の特性を活かした授業展開の中で、ICT 機器をツールとして活用する授業をより一層推進し、生徒の自主的な学習へつなげる。
- ウ 「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」を土台として、3年間を見据えた探究学習を充実する。
- エ 観点別評価を活用した指導と評価の一体化をめざし、「指導に生かす評価」の見える化をはかり、生徒の学習意欲の向上につなげる。
- オ 学習力向上チームを中心に、教科の枠を超えた授業公開や研究協議をよりいっそう活性化し、授業改善につなげる。

【R8年度までの到達目標】 ※「自己診断」とは 学校教育自己診断 を示す。

○ 自己診断（生徒）における「わかりやすい授業」の肯定率 80%以上をめざす。	[R3:69.9% → R4:61.2% → R5:72.6%]
○ 自己診断（生徒）における「工夫をしている先生多い」の肯定率 80%以上を継続する。	[R3:79.1% → R4:76.0% → R5:86.9%]
○ 自己診断（生徒）における「考えをまとめたり発表する機会多い」の肯定率 80%以上をめざす。	[R3:78.3% → R4:74.9% → R5:72.1%]

2 人権教育、キャリア教育の推進

(1)3年間を通して人権教育を系統的に推進する。さらにその延長上にキャリア教育・進路保障があるという観点で、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

- ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR 等を活用して、3年間を見通した人権教育・キャリア教育を積極的に行う。
- イ すべての教育活動が、人権教育につながるという意識を持ち、普段からの人権意識の向上に努める。
- ウ 生徒自らが「どのように生きるのか」を考え、「生き方の指針」を作ることができるよう、様々な出会いを通した人権教育・キャリア教育を推進する。
- エ 科目選択（パック選択）を、将来を見据えたキャリア教育の絶好の機会ととらえ、全校あげて実施する。
- オ 自立支援コース生の進路実現に向け、校内サポート体制を充実させるとともに、関係諸機関と連携し、就労に向けた取組を多面的継続的に行う。

(2)自分を大切にし、他人を尊重する立場から、自ら率先して基本的生活習慣を確立する態度を育て、自分や他人の進路保障につなげていく。

- ア 生徒自らが率先して、挨拶、礼儀、身だしなみ等を高めるような意識を持ち、それが進路保障につながるという意識を醸成する。
- イ 生徒自らが率先して、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立する意識を育む。

【R8年度までの到達目標】

○ 自己診断（生徒）における「進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 80%以上を継続する。	[R3:80.8% → R4:74.9% → R5:91.2%]
○ 進路実現率 100%をめざす。	[R3:98.8% → R4:98.7% → R5:99.1%]
○ 自己診断（生徒）における「先生の指導には納得できる」の肯定率 75%以上をめざす。	[R3:68.1% → R4:66.2% → R5:70.7%]
○ 年間遅刻総数 4000 件以下（めやすとして各クラスで1週間の遅刻6件以下）をめざす。	[R3:4432 → R4:6569 → R5:7298]

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1)総合学科の多様な学びを通して、1年次で「聴く力・話す力」、2年次で「調べる力・考える力」、3年次で「決める力・行動する力」を身につけ、生徒が自律的自発的に活動し、自らの才能が開花できる環境を整える。

- ア 学校行事や特別活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を経験し、自己肯定感の向上につなげる。
- イ 生徒が、お互いのちがいを理解し、ともに学び、ともに育つことによって、将来においても共生・協働できる姿勢を育む。
- ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。
- エ 生徒情報を教職員間で共有するとともに、支援教育委員会で集約し、SC や SSW 等の専門職とも連携し「チーム貝塚」として生徒を支えていく体制を継続する。

(2)他校種や地域との連携を深めるとともに、学校情報の積極的な発信を行い、地域や保護者からより一層信頼される学校をめざす。

- ア 地域に根ざす学校として、近隣の幼小中学校や、大学・専門学校・福祉施設等との連携をすすめる。
- イ 学校 Web ページや SNS 等を活用し、生徒会の生徒とも連携して情報発信を積極的に行う。

【R8年度までの到達目標】

○ 自己診断（生徒）における「行事はみんなが楽しく行われるように工夫されている」の肯定率 85%以上を継続する。	[R3:88.7% → R4:88.7% → R5:89.8%]
○ 自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 80%以上を継続する。	[R3:75.7% → R4:74.5% → R5:82.1%]
○ 自己診断（保護者）における「子どもが貝塚に入学してよかった」の肯定率 90%以上を継続する。	[新設 R4:95.4% → R5:94.2%]

4 力と熱意を備えた教職員集団と学校組織づくり

(1)教員の「働き方改革」を推進するためにも「チーム貝塚」の意識を高め、長時間勤務の縮減に努め、効率の良い時間の使い方を研究する。

- ア 校務運営については、ICT をツールとして活用し効率化を進める。
- イ 会議については、運営方法を見直し、有効活用を研究する。
- ウ 学校行事等については、スケジュール感を意識して活動計画を立てる。

(2)教職員が専門職として常に情報をアップデートする姿勢を持ち続けるとともに、「風通しの良い職場」として心身ともに働きやすい環境の維持に努める。

- ア 研修の精選を行い、専門職として必要な研修を充実させ、教職員が相互に高め合う職場環境をつくり、全体の質の向上を図る。
- イ 「チーム貝塚」として取組む意識を持ち、生徒情報の共有にいっそう努めるとともに、教職員どうしが助け合える環境づくりに努める。
- ウ 非常時の連絡体制を確立し、迅速かつ的確に対応できる校内体制を整える。

【R8年度までの到達目標】

○ 自己診断（教職員）における「学校は働き方改革に取り組んでいる」の肯定率 75%以上をめざす。	[新設 R4:55.9% → R5:72.0%]
○ 自己診断（教職員）における「校内研修は教育実践に役立つ内容」の肯定率 80%以上をめざす。	[R3:61.1% → R4:71.2% → R5:76.0%]
○ 自己診断（教職員）における「気軽に相談し合える職場の人間関係がある」の肯定率 80%以上を継続する。	[R3:72.2% → R4:69.5% → R5:84.0%]
○ 自己診断（教職員）における「組織的に対応できる体制が整っている」の肯定率 80%以上を継続する。	[R3:66.7% → R4:77.2% → R5:83.7%]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【1 確かな学力の育成】（ ）内は昨年比% ○自己診断－生徒から 「わかりやすく楽しい授業」67.3% (-5.3)、 「コンピュータを使う機会が多い」68.6% (-4.7)、 「先生がＩＣＴ機器を活用している」97.6% (+0.7) 「考えをまとめたり発表することが多い」79.7% (+7.6) 「教え方に工夫をしている先生が多い」84.1% (-2.8)。 ○自己診断－保護者から 「子どもは授業はわかりやすく楽しいといっている」61.9% (-4.3) ○自己診断－教員から、 「教材の精選・工夫を行っている」91.3% (+1.3)、 「学習指導の方法等他教科の担当者と話し合う機会がある」60.9% (±0) 「生徒がＩＣＴ機器を使用する授業が多い」71.7% (-0.6) 「教員がＩＣＴ機器を活用する授業が多い」97.8% (+6.3)。 生徒が主体的に学ぶ「学習力」の視点を大切にした。多くの教員が「教材の精選工夫を行い」「ＩＣＴ機器の活用」を進めた。また、生徒の活動や考えをまとめたり発表する等、様々な授業展開を行っていることもわかる。一方で生徒の評価では「わかりやすく楽しい授業」が極めて低く、教員の工夫が生徒にフィットしていない。その要因として、教員の工夫の共有が進んでいないことが考えられる。生徒の実態把握にチームで取り組み、評価と改善のサイクルの頻度上げる必要がある。また、生徒の「できた！わかった！」と感じる授業展開を全教員が共有できるよう、教科の枠を超え、授業公開が普段から当たり前にできる仕組みを実施したい。なお、「わかりやすく楽しい授業」は3年生では82.8%、「教え方に工夫」は86%等、学年が進行するにつれ、授業に対しての肯定率が上昇している。総合学科で自分に合った科目により、主体的に学びに向かう姿勢が向上したことの表れである。 【2 キャリア教育、人権教育の推進】（ ）内は昨年比 ○自己診断－生徒から 「進路や生き方について考える機会」94.7% (+3.5) 「進路についての情報をよく知らせてくれる」87.9% (+0.2) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」87.2% (-0.2) 「人権の大切さについて学ぶ機会」86.5% (-1.8) 「学校は生徒の意見をよく聞く」71.5% (-4.6) 「学校生活についての先生の指導には納得できる」69.7% (-1.1) 「先生はいろんな問題を見逃さず対応する」75.5% (-5.0)。 ○自己診断－保護者から 「進路についての情報をよく知らせてくれる」87.9% (+0.2) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」87.2% (-0.2) 「人権の大切さについて学ぶ機会」86.5% (-1.8) ○自己診断－教員から 「教職員は生徒の意見をよく聞いている」89.4% (-8.6) 「学校はカウンセリング・マインドを取り入れた生徒指導を行っている」89.4% (-2.7) 3年間通して行っているキャリア教育については一定の成果はみられる。入学直後からキャリア教育は始まっていると考え、早い段階から自分の進路イメージを持ち、さらに学びに向かう力とつなげたい。人権教育については、本校が最も大切にしているが、微減しているため、教育活動の土台としていることを教員が日々意識し、今後も継続的に取り組む必要がある。生活指導に対しては、様々な課題を抱えた生徒がいる中、教員がカウンセリングマインドを持って接するようにしてきた。生徒、教職員とも昨年度から微減している。「生徒に寄り添う」を改めて意識し、生徒との良好な関係づくりに努める。 【3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成】（ ）内は昨年比 ○自己診断－生徒から 「行事はみんなが楽しく行えるよう工夫されている」87.2% (-2.6) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」76.8% (-5.3) 「担任以外で気軽に相談できる先生がいる」61.4% (+0.8) 「生徒会活動に関心を持って積極的に参加している」73.9% (+2.6) 「部活動に積極的に取り組んでいる」61.4% (+3.8) 行事については微減だが、満足度も高く十分に達成している。SC とSSW が月1回来校することや、担任以外に相談でき、居場所づくりに繋がっている。また、部活動では行事や中庭ライブでのパフォーマンスが増えたこと、生徒会執行部がより多くの行事に関わったことが肯定的にとらえられたと考える。 【4 力と熱意を備えた教職員集団と学校組織づくり】（ ）内は昨年比 ○自己診断－教員から ○「学校は働き方改革に取り組んでいる」74.5% (+2.5) ○「校内研修は教育実践に役立つ内容」68.1% (-7.9) ○「気軽に相談し合える職場の人間関係がある」68.1% (-15.9) ○「組織的に対応できる体制が整っている」71.7% (-11.9) ICT化、グループウェアによる効率化が定着していること、また意識の変化により、そう勤務時間が減っている。その反面、教職員集団の協働面で体制が非常に弱くなっている。この要因としてICT化によって直接コミュニケーションとる機会が減っていることが考えられる。それに加え、今年度の転出した教員の在校歴が比較的長かったこと、転出入の年齢バランスも集団づくりが難しかったとも考えられる。さらに業務の精選、適切な人材配置、メンターメンティ制を取り入れる等、組織づくりに重点を置いていく。	□第1回（6月26日） ・地域連携において、貝塚商店街では貝塚生徒がフラワーボックスの配置を作成している活動も、地域住民から好評である。地域連携によって地域の方から「貝塚の生徒と一緒にするとこんないいことがある」と思ってもらえる取り組みを、たくさんやっていってほしい。 ・自立支援教育として1年次で作業所体験を行っているとのことであれば、さらに連携を深めていくことも可能ではないか。 ・10月のオープンスクールについて、貝塚市内の中学校の体育大会の日程が昨年ごろから10月になっているため、近隣中学校との行事予定の共有も今後は視野にいれたほうが良いかもしれない。 ・遅刻には、2時間目以降の登校なども多いようだが、遅刻の仕方はどのような傾向か捉えるとよい。 ・廊下や階段の落ち葉や髪の毛が目立っているため、遅刻指導で清掃行うのはどうか。 □第2回（10月18日） ・過去からも大阪調理専門学校から貝塚高校の卒業生が来て授業をしていたが、現在も卒業生が授業に入ることがあるのか。そういう取り組みは、生徒にとって良い目標となっている。 ・授業中、姿勢が良くない生徒についてはどのように指導しているのか気になる。 ・長い爪は授業を受ける際に不便。爪を短くすることによって鉛筆を正しく持つことができ、字も書きやすくなる。そのような指導も必要と感じた。 ・授業参観が久しぶりで、子どもが頑張っている姿を見られてとても良い経験ができたと思う。是非また参加したい。 ・英語の授業では生徒が積極的に声を出し、よく頑張っていた。このような授業を体験して学ぶ楽しさを知り、進学や将来の目標に向かうエネルギーとなっていると感じた。動画で卒業生が自分の進路についてや貝塚高校の良さについて自分の言葉で伝えていて素晴らしいと思った。 □第3回（1月22日） ・マイナス面を取り上げてみるとさみしい。「学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細やかに行っている」について保護者の評価が、大幅にマイナスになる点は、先生方は働き方改革と言われているが、こちらに時間を費やせなくなっている部分もあるのではないかな。信頼関係を作るには時間が必要、働いている保護者の方もいるので5時以降は電話がかからない面等があるのではないかな。 ・文章だと捉え方が違う、同じ文章でも良い悪いが変化していく、最近若い人はそれで済ましてしまう面もあるが、離れている世代とでは引っかかる面もある。世代が違くとコミュニケーションは取りにくいのではないかな。 ・特に今保護者との間でしんどい思いをしている人はいるかについて、保護者の方は寄り添ってくださる方が多いのでそこは苦労していませんということで、保護者と先生が互いに寄り添っているのはとてもいいことだと思う。 ・学校に来るのに楽しいとか、行事が楽しいと思ってくれているのは、学生生活が充実しているという証拠、とてもいいことだと思う。 ・自立支援コース生の進路希望100%ということで、卒業後のフォローも含めてお願いします。 ・ほとんどの結果としてはとても高い数値、生徒たちがほぼ満足してくれている、それだけ教員が努力されている証だと思う。 ・引き続きアンケートを取っていただいて、課題解決をお願いしたい。 ・地域連携は引き続きよろしくお願いします ・貝塚高校教育フェスタは24回となる。保護者だけでなく、いろいろな方にご案内等していただきたい。 ・今年はSNSが始まったということだが、実際の画面を見ると、保護者の方も安心すると思う。ぜひ続けていただきたい。 ・生徒にとって学校が素晴らしい場と感じてくれたら良いと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価生徒会活動に

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と学習指導要領の確実な実施	(1)「わかる授業」 ア 学習力向上の前提となる教員の授業力を底上げし、生徒主体の「学習力」視点での授業展開を工夫する。 イ 評価と指導の一体化をめざし、指導に生かす評価の見える化をはかり、生徒の学習意欲の向上につなぐ。	(1)わかる授業により生徒は安定する ア① 学習力向上チームを中心に、卒業までに生徒が身につけるべき力について、教職員での共有化を図るとともに、「学習力（生徒が自ら考え、主体的に学びその成果を実感しさらに学びに向かう意欲を高める力）を引き出す授業」を実施し、「生徒にとってわかりやすい授業」「生徒が主体的に参加できる授業」の構築に努める。 ②「互いに高めあう教員集団」の育成をめざし、授業見学期間だけでなく、教科の枠を超えていつでも気軽に授業見学ができる雰囲気醸成するとともに、教員の取組の共有化をすすめる。 イ 観点別評価により、「知識・技能」に偏らず、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をしっかりと評価することで、生徒が達成感をもって学びを深める授業」をさらに推し進める。	ア①自己診断（生徒）の「わかりやすい授業が多い」を 75%に [72.6%] 「授業に工夫をしている先生が多い」を 80%維持 [86.9%] 「考えをまとめたり発表する機会多い」を 75%に [72.1%] ②自己診断（教員）の「他教科と話し合う機会がある」を 75%に [60.9%] イ 自己診断（生徒）の「評価には日ごろの取組も加味」を 90%維持 [92.6%] 各教科の取組を全体でも共有できるよう、自主学習会を開く。	ア①「わかりやすい授業が多い」は、67.3% 3年生が 82.8%、1 年生は 56.2% （△） 「授業に工夫をしている先生が多い」は、84.1%（○） 「考えをまとめたり発表する機会多い」79.7%（◎） 教科内で 3 年間を通して学習力を伸ばす研究を進める体制を実施する。 ②他教科と話し合う機会がある」は 60.9%と前年度と同じ（△）教科の枠を超えて学び合う仕組みを教化する必要がある。 イ「評価には日ごろの取組%とも加味」は 89.4%にとどまったが、3 年生では 94.3%、他学年でも 86%を超えており、知識技能に偏らない評価を十分行っている。（※○）
	(1)人権教育・キャリア教育の推進 ア 「産業社会と人間(産社)」「総合的な探究の時間(総探)」を、本校の大きなミッションの一つとしてより充実させる。 イ すべての教育活動が人権教育につながるという意識を持ちつつ、様々な出会いを大切にしながら、タイムリーな人権教育を行う。 ウ パック選択を、将来を見据えたキャリア教育の絶好の機会ととらえ、全校あげて実施する。 エ 自立支援コース生の進路実現に向け、校内サポートを充実するとともに、関係諸機関と連携し、就労に向けた取組みを多面的継続的に行う。 (2)基本的生活習慣 ア 生徒が率先して、挨拶、礼儀、身だしなみ等を高める態度を持ち、それが進路保障につながるという意識を醸成する。 イ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立する意識を育む。	(1)自尊感情の高まりにより生徒は安定する ア 「産社」「総探」をより充実させるため、担任・副担任の TT 体制を継続し、生徒が主体的により深く考えられる環境をつくる。 探究活動については、生徒に達成目標を明確に示したうえで、相互発表活動を充実し、貝塚高校教育フェスタで発表するなど、プレゼン能力の向上をめざす。 イ 人権教育は特別なものではなく、すべての教育活動が人権教育につながることを教職員は意識する。系統的な人権学習については、人権教育推進部を中心に、外部人材も活用しながら、生徒の実情と社会状況に応じた人権教育を推進し、豊かな人権感覚を育てる。 ウ キャリア教育とパック選択指導が生徒の中でリンクするよう、自分の将来をデザインしたうえでパック選択ができるパック選択オリエンテーションを全校あげて実施する。さらに、オリエンテーション成果の検証を継続して行う。 エ 自立支援コース生の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携を強化する。特に就労に向けた職場体験・職場実習を積極的に行う。 (2)日々の見守りと助言により生徒は安定する ア① 生活指導は進路指導であるということを繰り返し伝えながら、生徒自らが社会で通用する身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、メリハリのある指導を粘り強く行う。 ② 生徒会執行部とも連携し、生徒主体のキャンペーンを行う。 イ 基本的生活習慣の確立のため、まず遅刻件数を減らすよう取り組む。保護者との連携も丁寧に行う。遅刻の多い生徒には、どうすれば減らすことができるかを一緒に考えながら、粘り強く指導を行う。	(1) ア 自己診断（生徒）の、「進路や生き方について考える機会がある」を 80%維持 [91.2%] イ自己診断（生徒）の、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」を 80%維持 [88.3%] 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を 80%維持 [87.4%] ウ 自己診断（生徒）の、「進路情報をよく知らせてくれる」を 85%維持 [87.8%] パック選択オリエンテーション後のアンケートで満足度 90%維持 [97.1%] 卒業生の希望進路実現 100% [99.1%] エ 自立支援コース生の希望進路の実現 100% [100%] (2) ア① 自己診断（生徒）の「先生の指導に納得できる」を 73%に [70.7%] ② 生徒会執行部主体のキャンペーンを、年間 3 回行う。 イ 遅刻件数を 5000 件以下に（めやすとして各クラス 1 週間の遅刻 8 以下）[7298 件]	ア「進路や生き方について考える機会がある」94.7%（◎） イ「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」87.2%（○） 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」86.5%（○） 自己診断（生徒）の、「進路情報をよく知らせてくれる」91.9%（◎） 「パック選択オリエンテーションアンケートで満足度」97.1%（○） 卒業生の希望進路実現 98.3% エ 自立支援コース生の希望進路の実現 100%（◎） 本人・保護者の意向を十分踏まえ、関係諸機関と強く連携を行えており、より一層サポートと連携に努める。 ア①「先生の指導に納得できるは 69.7%にとどまった。（△） 関係性が大切で、年次進行とともに肯定率は上がっているが特に生活指導について指導内容、方法について検討していく。 ②生徒会執行部のキャンペーンは 1 回。活性化ができる人材配置する(○) イ遅刻件数は 7238 件 遅刻指導の方法を変え、昨年度より 60 件減少となった。時間を守ることが自分を大切にすることだと訴えるとともに、さらに有効な方法を検討する（○）

府立貝塚高等学校

3 自主・自律・創造力と協調・協働力の育成	(1)多様な学びによる生徒の自律的自発的活動 ア 学校行事や特別活動を通して達成感等を経験し、自己肯定感の向上につなげる。 イ お互いがともに学び、ともに育つことによって、将来においても共生・協働できる姿勢を育む。 ウ 生徒情報のこまめな共有とともに、「チーム貝塚」として生徒を支えていく体制を継続する。 (2)地域連携と発信 ア 近隣の幼小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 生徒会の生徒とも連携した学校の情報発信を積極的に行う。	(1)自尊感情の高まりにより生徒は安定する ア 行事をできる限り生徒主体で進めることで、連帯感・成就感・達成感を経験し、多くの感動を体験することで、自己肯定感を高める。 イ 授業においては、探究活動や発表活動を積極的に行う。体育祭・文化祭等の行事においては、工夫を凝らし、協働する姿勢や他者を思いやる心を育み、コミュニケーション力を高め、仲間づくりを進める。 ウ 課題を抱えた生徒に迅速かつ組織的に対応するために、生徒情報は年次団会議、支援教育委員会等で集約したうえで、職員会議等で全教職員に共有し、「チーム貝塚」として SC や SSW 等の専門職とも連携しながら対応する体制を継続する。 (2) ア 地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、部活動で中学生を招いての合同練習や本校主催の貝高カップ戦などを実施し、学校の取組みを外部の人に発信し、本校への理解・信頼を深めてもらう。 また、近隣の幼小中学校や施設と、生徒・教職員の交流を積極的にすすめ、地域を支えリードする意識の向上に繋げる。 イ Web ページやブログ、SNS を活用し、「生徒の活動の見える化」に取り組む。本校の特徴ある教育活動の魅力を広く発信する。 また、広報活動に、生徒会を中心とした生徒がより積極的に関わるように進める。	(1) ア 行事満足度を 95%に [体育祭 95.9%、文化祭 93.6%] イ 自己診断（生徒）の「行事はみんなが楽しくできるよう工夫」を 85%維持 [89.8%] ウ 自己診断（生徒）の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」を 80%維持 [82.1%] 「担任以外で保健室等で相談できる先生がいる」を 60%維持 [60.6%] 自己診断（教職員）の「教育相談体制が整備され生徒は担任以外とも相談できる」を 80%維持 [85.1%] (2) ア 自己診断（生徒）の、「地域の人々や近隣の学校との交流機会がある」を 60%以上 [59.7%] 部活動で幼小中等との交流を 5 部以上で実施 [4 部] 保護者の学校満足度を 90%維持 [94.2%] イ 校長ブログは月 4 回以上更新する。 Web ページはタイムリーな更新を実施する。SNS 等を活用し生徒会主体の情報発信も行う。 学校説明会で生徒の成果物を活用するとともに、生徒会を中心に生徒にも運営に協力してもらう。	ア行事満足度は 95.5%（○） [体育祭 98.3%、文化祭 92.6%] 「行事はみんなが楽しくできるよう工夫」は 87.2%（○）体育祭・文化祭等の行事において共生・協働できている。さらに他者への思いやりの心を進められる活動を行う。 ウ「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」76.8%（△） 「担任以外で保健室等で相談できる先生がいる」61.4%（○） 「教育相談体制が整備され生徒は担任以外とも相談できる」83.0%（○） チーム貝塚として教職員・専門職とも連携できた。さらに強化していく。 ア「地域の人々や近隣の学校との交流機会がある」58.1%（△）3 年生と 1 年生は 31.8%と大きく開きがある。共通科目で地域との交流を意識した活動を検討する。 幼小中等との交流は 3 部の実施になった保護者の学校満足度 93.5%（○） 地域交流には力を注いだ。さらに内容、範囲を充実させ、広報活動をさらに進める。 イ 校長ブログは 45 回。（○） Instagram の開設を行い、「生徒の活動の見える化」がタイムリーに行えた。 学校説明会では、生徒会執行部が積極的に進行に関わり、中学生に親近感を与えた。さらに活動の場を増やしていく。
4 力と熱意を備えた教職員集団と学校組織づくり	(1)働き方改革 ア ICT をツールとして活用し校務運営の効率化を進める。 イ 会議の運営方法を見直し、有効活用を研究する。 ウ 学校行事等は、スケジュール感を意識して活動計画を立てる。 (2)教職員のスキルアップと「チーム貝塚」 ア 研修の精選を行い、専門職として必要な研修を充実させ、教職員集団全体の質の向上を図る。 イ 「チーム貝塚」の意識を持ち、生徒情報の共有に努めるとともに、教職員どうしが助け合える環境づくりに努める。 ウ 非常時の連絡体制を確立し、迅速かつ的確に対応できる校内体制を整える。	(1)学習環境改善により生徒は安定する ア ICT 活用は一定浸透したので、次のステップとして効果的な校内連絡体制を構築する。 イ 会議日程の見える化をさらに進めるとともに、開始・終了時刻を明確にし、効率の良い運営方法を研究する。 ウ 学校行事等日程から逆算したスケジュールに合わせて活動計画を立てるとともに、生徒の最終下校時刻を設ける。 (2) ア 専門職として必要な研修を充実させながら、研修の精選を進め、教職員がともに学べる「自主研修」も活用し、より主体的に研修に参加できるよう工夫するとともに、個々の取組を全体に共有することで教職員集団全体としての質の向上を図る。 イ 業務を個人で抱え込まず、「チーム貝塚」として取り組む意識を持つとともに、非常時には迅速かつ的確に対応できる校内体制を整える。 ウ グループウェアの活用により平時の連絡体制を構築し、すべての教職員が使いこなせるように努める。これにより、非常時にも慌てず的確に活用できることをめざす。	(1) ア グループウェア等を活用した教職員連絡体制を、全教職員が平常時に活用できるようにする。 イ 会議日程や会議録の共有だけでなく、すべての会議日程の見える化を ICT を活用して行う。 ウ 自己診断（教職員）の「学校は働き方改革に取り組んでいる」を 73%以上 [72.0%] (2) ア 自己診断（教職員）の「校内研修は教育実践に役立つ内容」を 78%以上 [76.0%] イ 自己診断（教職員）の「気軽に相談し合える職場の人間関係がある」を 80%維持 [84.0%] ウ 自己診断（教職員）の「組織的に対応できる体制が整っている」を 80%維持 [83.7%]	ア教職員の連絡体制はグループウェアを常時使用が十分定着している。 さらに活用できることがあれば進める。 イ会議日程、会議録の共有により、情報共有体制が十分行えている。 ウ「学校は働き方改革に取り組んでいる」は 74.5%（○） 学校行事は内容を充実させたままスリム化が行えた。 (2) ア自己診断（教職員）の「校内研修は教育実践に役立つ内容」61.8%（※○）最後の研修では 100%とであったので成果はあった。 ただ、参加率については 50%であったため。生徒対応等に追われる中で、研修に対する優先度の低さが考えられる。積極的に参加できる日程や内容の工夫を行う。 「気軽に相談し合える職場の人間関係がある」68.1%にとどまった。（△） 教職員どうしが助け合える環境づくりを強く進める必要がある。 ウ「組織的に対応できる体制が整っている」71.7%（△）十分対応できる体制であるが、役割と責任を明確にし、改めて示していく。